第 58 回日本動脈硬化学会総会・学術集会を終えて



大会長挨拶（左：吉田博先生、右：佐藤加代子先生）

第 58 回日本動脈硬化学会総会・学術集会は、「健康寿命を支える総合力　発展する動脈硬化予防の科学と実践」をテーマに、2026 年 7月4日～5日に東京・新宿京王プラザにて開催しました。また収録された教育講演等をオンデマンド配信として8月28日までWeb開催特別サイトにて公開致しました。猛暑のなか、1100人（Web 参加を含めると 1,616人）の皆様にご参加いただき、盛会裏に学術集会を終えることができましたこと、あらためて深く感謝申し上げます。

海外招聘公演については、The 11th Shimamoto Takio Memorial Lecture として、University of California San Diego の Christopher K. Glass 教授より「Decoding TREM2-dependent macrophage phenotypes in metabolic and neurodegenerative diseases」、University of California Los Angeles の Steve Horvath 教授より「Vascular aging: The role of epigenetic clocks in atherosclerosis and heart health」、特別講演として Mayo Clinic Alix School of Medicine and Stanford University School of Medicine の Cornelia M. Weyand 教授より「A new disease paradigm for age-related cardiovascular inflammation」のタイトルで、それぞれご講演をいただきました。その他に海外からのご高名な先生方からのプレナリーレクチャーがあり、Florian Kronenberg 教授（Medical University of Innsbruck, Austria、Lp(a)と動脈硬化性疾患関連)、Antonio Gallo 准教授 (Sorbonne University, France、FH 関連)、Christa M. Cobbaert 教授（Leiden University Medical Center, Netherlands、アポリポ蛋白・Lp(a)と臨床検査)、Sotirios Tsimikas 教授（University of California San Diego, USA、Lp(a)と酸化リン脂質および Lp(a)低下薬開発）からご講演をいただきました。また今回はレジェンド講演と銘打って、栄養学分野と動脈硬化に焦点を当てて、近藤和雄先生（お茶の水女子大学名誉教授）から「ポリフェノールと動脈硬化」、香川靖雄先生（日本栄養大学 副学長）から「食塩・葉酸・DHA の代謝酵素遺伝子多型に対応した栄養指導による動脈硬化の予防」のご講演をいただきました。



第一会場



ポスター会場

本学術集会では、日本動脈硬化学会評議員の皆様より前もってご提案いただいたテーマから、プログラム委員会における経時的議論を経て選ばれた 15 個のシンポジウムおよび委員会企画（4 つの他学会合同シンポジウムを含む）をはじめ、3 つの国際シンポジウム［KSoLA-TSLA-JAS Joint symposium、APSAVD-IAS-JAS Joint Symposium（スポンサードシンポジウム）、CAS-JAS Joint Symposium］、14 個 の委員会企画、AMED 事業研究の成果報告「MASLD にともなう ASCVD の予防に資する健康推進指針」、Lp(a)調査検討ワーキンググループ報告、その他に 6 つのスポンサードシンポジウムや 8 つのランチョンセミナーなど、最新トピックスから継続的な課題まで、盛りだくさんのテーマが取り上げられ、活発な議論が行われました。また 7 つの教育講演（オンデマンド配信）、継続開催されている診断技術向上セミナー、さらには循環器病予防療養指導士セミナーの他にメディカルスタッフカンファレンス（MSC）や若手医師向け企画などもあり、教育企画も充実したものとなりました。一般演題は 143 題が採択され、高評価を受けた 34 題を口頭発表いただきました。

学会による学術業績の顕彰として、東京慈恵会医科大学客員教授の多田紀夫名誉会員（第 43 回大島賞）、東京慈恵会医科大学附属柏病院病院長・教授の吉田博理事（第 27 回日本動脈硬化学会賞）、東京大学教授の蔵野信評議員（第 21 回五島雄一郎賞）に、それぞれ受賞講演をいただきました。また神戸大学の江本拓央氏には第 34 回若手研究者奨励賞最優秀賞が、大阪医科薬科大学の藤岡慎平氏には同優秀賞が贈られました。高評価を受けた応募一般演題の中からは、滝澤大輝氏・神保佳穂氏・小島秀規氏・尾松卓氏・浅井洋一郎氏・山浦大輝氏に、第 4 回若手優秀演題賞が贈られるとともに、第 4 回メディカルスタッフ賞が五十嵐大輔氏に贈られました。

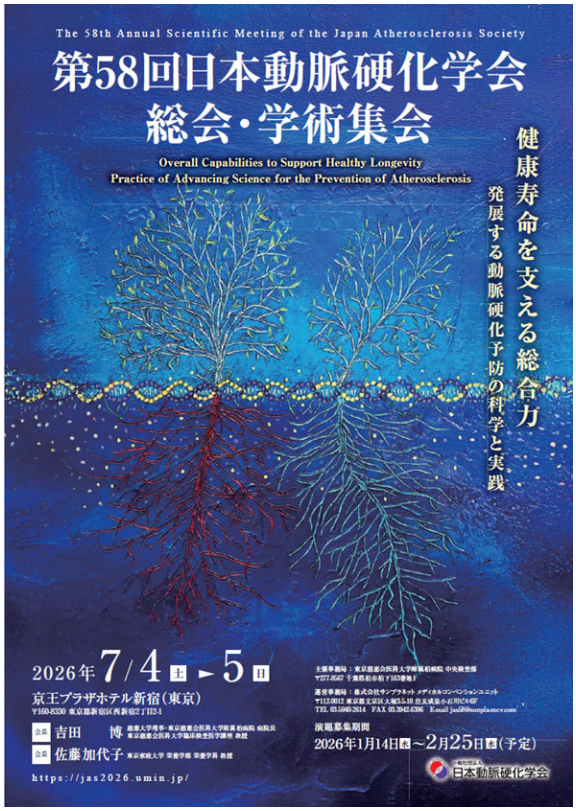
学会初日夕刻には会員懇親会が開催され、外国からの招待者を含む多数の皆様が集う交流の場となり、東京慈恵会医科大学のゴスペルの合唱などもあって盛り上がり、in person の学会が開催できることの喜びと意義とともに、本学会の益々の発展を期待できました。

恒例の市民公開講座には多数の市民にご参加いただき、「ライフコースアプローチと健康長寿～超高齢社会の日本におけるサクセスフルエイジングと動脈硬化予防～」をテーマに、市民の皆様に馴染みの深い元プロテニスプレーヤーの杉山愛様（BJK 杯日本女子代表監督）とタレント・女優であり研究者としてもご活躍のいとうまい子先生（情報経営イノベーショ

ン専門職大学教授)、さらに栄養学の視点から食事と健康とフレイル・サルコペニアについて葛谷雅文先生（名古屋大学名誉教授）にご講演をいただき、とても有意義な時間を共有できました。

本総会・学術集会の開催にあたり、多大なご尽力を賜りました日本動脈硬化学会事務局の皆様、関連学会諸委員会の皆様、支援団体ならびに協賛企業の皆様、そして何よりもご参加いただき総会・学術集会にご協力いただきました全ての皆様に心より感謝申し上げます。本学術集会が、日本動脈硬化学会の研究、臨床、教育、社会に向けて、有意義で新しい発信となりますことを心より願っております。

第 58 回日本動脈硬化学会総会・学術集会会長
吉田 博　（東京慈恵会医科大学　教授）
佐藤 加代子　（東京家政大学　教授）



第 58 回総会・学術集会ポスター



会場入り口